輝く瞳
学ぶ喜び

要田小学校だより
第　卒業２号
2017．3．23．THU
TEL:62-2433　FAX:62-3439

教育目標
・進んで学ぶ子
・思いやりのある子
・がんばる子

平成２８年度　卒業証書授与式　式辞！

【抜粋】卒業にあたり、最後のメッセージを送ります。

福島市出身のタレントで、「電波少年」というテレビ番組で有名になった、なすびさん。本名：浜津智明さん（４０歳）。彼は、４度目の挑戦で、世界最高峰、８８４８mのエベレスト登頂に成功しました。なぜ、なすびさんは、エベレストに挑戦したのでしょうか。登頂するどころか、そこにいることすら「命の危険」が目の前にあるような危険な山です。さらに、もともとは登山が苦手で山に登ったことがなかったのです。

今日は、なすびさんの生き方を紹介したいと思います。

２０１６年５月１９日、日本時間午後３時４０分、４度目の挑戦で登頂に成功したときの写真です。彼が、なぜ、エベレストを目指すことを考えたのでしょう…

それは、２０１１年３月１１日に発生し、震災関連死を含めて、死者・行方不明者が２万１９７２人の大きな被害をもたらした「東日本大震災」です。福島県は、原発の事故も重なりました。何かできることはないか。今できること、小さなことでもいいからやってみようと、福島県に寄り添って、「物産展」の応援活動を行っていました。しかし、活動中に「記憶の風化」を感じたのがきっかけでした。

登山初心者が、世界一高い山に登ることができれば、それは奇跡だ。被災地福島県に元気を与え、世界に福島を伝えることができると思い、挑戦を決めたなすびさん。１回目の挑戦は２０１３年。あと１５０mのところで天候が悪化し断念。２回目の挑戦は２０１４年。雪崩死亡事故が発生しルートがなくなり中止。３回目の挑戦は２０１５年。ネパール地震が発生し断念。

しかし、挑戦はあきらめていませんでした。４度目の挑戦に向けて、２０１５年の冬に青森から相馬市までの東北沿岸部９００Kmを歩きました。その時に、岩手県や宮城県の方々からも応援をもらったそうです。東北にも元気と勇気を、夢と希望を届けたいと挑んだ、２０１６年５月１９日、４度目の挑戦で、エベレスト登頂に成功しました。「人間やればできるんです。奇跡は起こる。一緒に頑張って行きましょう」と頂上からエールをおくりました。

目指してからこの４年間、様々な困難や苦難、悲運や不運にも見舞われ、悔し涙もたくさん流したなすびさん。

しかし、なすびさんはいつも笑顔でいました。今回のエベレスト登頂は、福島県で復興に歩む人たち、ふるさとを愛する人たちに大きな勇気と希望を伝えてくれました。「成し遂げられたのは、応援して下さった皆さんのおかげです」となすびさんは謙虚さでこたえます。

４度目の挑戦で登頂に成功したことは、「転んでも転んでも何度でも起き上がる、福島県の縁起物の起き上がり小法師（こぼし）の様」と振り返りました。

２０１６年９月、なすびさんは田村市に来て下さいました。

講演会の中で、「叶わない夢なんてない。５回失敗しても１０回失敗しても、**あきらめない**という強固な気持ちで努力を続ければ、**叶えられる夢はある**んじゃないかな。」と話されました。

あきらめないなすびさんの「生き様」にふれた皆さんへ最後に送る言葉。

「道」

自分には自分に与えられた道がある。どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めないかけがえのないこの道。広いときもある。せまいときもある。のぼりもあればくだりもある。道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。高い志や夢の存在こそが皆さんの行動を促し、その結果として、皆さんの世界を広げ、道が開けるのです。

もちろん、努力してもその努力が報われない時はあります。苦しいことや悲しいことも経験していくことでしょう。しかし、そんな時でも努力することを怠らなければ、必ず道が開け、描いた夢に近づくことができるでしょう。ぜひ、この地球上でただ一人の自分を大切にして、可能性に挑戦し続け、頑張っている自分を見つけてください。そして、高い志を抱いて、誠実に、夢に向かって、堂々と胸を張って、自分の選んだ道を進んでいってください。

あきらめなかった、なすびさんのように。

最後はお願いです。東日本大震災。多くの人たちが苦しい立場に立たされました。6年経った今でも８万人の方が県内外で避難生活を強いられ、避難区域にある小中学校の１万１千人の児童生徒が避難先で授業を受けています。福島県が一日も早く元の福島に戻るためには、皆さんの若い力が、エネルギーが不可欠です。多くの方々に支えられていることへの感謝の気持ちを忘れず、未来に向かって挑戦することをお願いいたします。

さあ、卒業生の皆さん、羽ばたきの時です。胸を張って、堂々と笑顔で飛び立ってください。最後の授業の式辞といたします。

要田小学校長　大河原　久宗

自分を信じ
夢を信じ
できると信じ
前に進めば
かならず　できる